

取扱説明書

フィーダー細胞(SL10)

Cat.# RCHEFC001

保存方法

本製品は冷凍状態で輸送されます。温度変化に非常に敏感なため到着後すみやかに-80℃で保存して下さい。温度変化の多いドア付近等には保存しないで下さい。なお、6 カ月以上使用しない場合は液体窒素で保存して下さい。凍結融解は行わないで下さい。

特長

- ・ ヒト ES/iPS 細胞、マウス ES 細胞のフィーダーとして幅広くお使いいただけます
- ・ ネオマイシン耐性です
- ・ マイトマイシン C 処理をしていますので、解凍後すぐにフィーダー細胞として使用できます
- ・ ヒト iPS 細胞(Takahashi, K., et al., *Cell*, 131, 861-72, 2007)でロット試験済みです。

製品について

本品は研究用ですので、治療・診断目的には使用しないで下さい。また、本品を当社からの許可なしに第三者への販売や商業目的に使用することを禁じます。

使用方法

ヒト iPS 細胞を培養する場合、フィーダー細胞の密度は、 6×10^5 cells/60mm ディッシュが適当です。(ご使用の細胞株によってフィーダー細胞の密度が異なる場合がございますので、適切な濃度に調整して下さい。調製後 5 日以上経過したフィーダー細胞は、iPS 細胞の未分化能を十分に維持できない場合がありますので、使用しないで下さい。

必要なもの

- ・ SL10 用培地
- DMEM-high glucose/ 10% FBS/ 1mM Sodium Pyruvate (Penicillin-Streptomycin)
- ・ ReproCoat
- ・ その他培養操作に必要なもの

操作方法

- 1、細胞を調製する 30 分以上前に、ディッシュに ReproCoat を適量加え(表 1 参照)、37℃ CO₂ インキュベーターで静置しておきます。
- 2、15mL チューブに4℃に冷えた SL10 用培地を 8 mL 加えておきます。
- 3、本品フィーダー細胞(SL10)を 37℃ウォーターバスで解凍し、操作 2 であらかじめ準備しておいた 15mL チューブへ移します。更に、新しい培地 1mL でフィーダー細胞の入っていたバイアル内を洗い、残りの細胞も回収します。
- 4、約 170g (1,000 rpm)、4℃、5 分間遠心します。
- 5、遠心後上清を除き、 1.5×10^5 cells/mL になるように常温の SL10 用培地で細胞を十分に懸濁します。
- 6、操作 1 でコーティングしたディッシュから ReproCoat を除き、ディッ

シュサイズに合わせて細胞懸濁液を加えます(表 2 参照)。(ご使用の細胞株によって、適切な細胞密度が異なる場合がございます。)

7、CO₂ インキュベーターに入れる直前に、細胞が均一になるようにディッシュをゆらし、37℃、CO₂ インキュベーターで一晩培養します。

8、翌日からフィーダー細胞として使用できます。すぐに使用しない場合は、37℃、CO₂ インキュベーターで静置し、4 日以内に使用して下さい。

表 1 ディッシュと必要な ReproCoat 量

ディッシュのサイズ	ReproCoat の分量
24-well	200~300 μ L
12-well	500 μ L
6-well/35 mm	1 mL
60 mm	2 mL
100 mm	4~5 mL

表 2 ディッシュとフィーダー細胞懸濁液量
(懸濁液: 1.5×10^5 cells/mL の場合)

ディッシュのサイズ	細胞懸濁液の分量
24-well	0.4 mL
12-well	0.8 mL
6-well/35 mm	2 mL
60 mm	4 mL
100 mm	12 mL

関連製品

RCHEMD001	Rimate ES Cell Medium
RCHEMD003, 004	ReproFF
RCHEMD005	Repro Stem
RCHETP002	Dissociation Solution for human ES/iPS Cells
RCHEFM001	Freezing Medium for human ES/iPS Cells
RCHEOT001	ReproCoat
RCHEOT002, 003	bFGF
RCHEOT004	Laminin-5
RCHEFC003	Feeder Cells (MEF)

株式会社リプロセル

<http://www.reprocell.com>

E-mail: info_repro@reprocell.com